

航空事故調査報告書
佐川航空株式会社所属
ベル式206B型JA9265
秋田県南秋田郡昭和町
平成4年8月4日

平成4年10月8日

航空事故調査委員会議決

委員長	竹内和之
委員	吉末幹昌
委員	宮内恒幸
委員	東昭
委員	東口實

1 航空事故調査の経過

1.1 航空事故の概要

佐川航空株式会社所属ベル式206B型JA9265（回転翼航空機）は、平成4年8月4日薬剤散布飛行を終了し、秋田県南秋田郡昭和町の場外離着陸場で同社営業職員が機体に付着した薬剤の洗浄中、08時56分ごろエンジン停止後の惰性で回転していたテール・ロータ・ブレードに手首が接触し、重傷を負った。

1.2 航空事故調査の概要

1.2.1 事故の通知及び調査組織

航空事故調査委員会は、平成4年8月4日、運輸大臣から事故発生の通報を受け、当該事故の調査を担当する主管調査官及び調査官1名を指名した。

1.2.2 調査の実施時期

平成4年8月5日～6日 現場調査

2 認定した事実及び事実を 認定した理由

2.1 事故の経過

J A 9 2 6 5 は、平成 4 年 8 月 4 日、秋田県南秋田郡昭和町の休耕地に設置した場外離着陸場を使用して、0 5 時 0 2 分から 0 8 時 5 3 分までの間、水田 2 2 6 ヘクタールに対して薬剤散布飛行を行った。散布終了後、同機は同場外離着陸場のほぼ中央に着陸し、エンジンをアイドリングの状態にして薬剤タンクの洗浄を行った後エンジンを停止した。その後、同社の営業職員が機体に付着した薬剤をぬぐっている最中に、惰性で回転していたテール・ロータ・ブレードに手首が接触し、重傷を負った。

同人によれば、事故発生時の状況は次のとおりであった。

同機が着陸し、機長がエンジンを停止させた後、整備士は燃料補給作業をしていたので、機体の洗浄を手伝うために機体の左側前方から後方へ布でふいていった。

テール・ブームの水平安定板付近までふいていった時、テール・ロータはまだ完全には停止していなかったが、ブレードが見える程度の回転だったので大丈夫と思い注意しながらブレードのそばまで手を伸ばしたが、手首がテール・ロータ・ブレードに接触した。

接触時は出血もなく意識もはっきりしていた。

同人は、直ちに救急車で秋田市内の病院へ運ばれ、診察を受けたところ、右前腕骨開放性骨折で全治 3 カ月とのことであった。

事故発生時刻は 0 8 時 5 6 分ごろであった。

2.2 その他必要な事項

2.2.1 営業職員の業務について

同社のヘリコプター事業部職務分掌規定によれば、薬剤散布作業に同行する営業職員の業務は、薬剤散布実施団体との調整及び運航職員の援助であり、機体洗浄の手伝いはこの援助業務の一環として従来から行われてきていたとのことであった。

2.2.2 同機のテール・ロータ・ブレードの塗装について

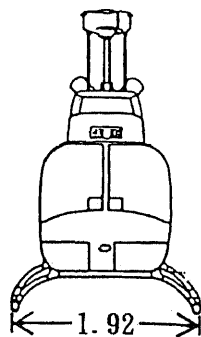
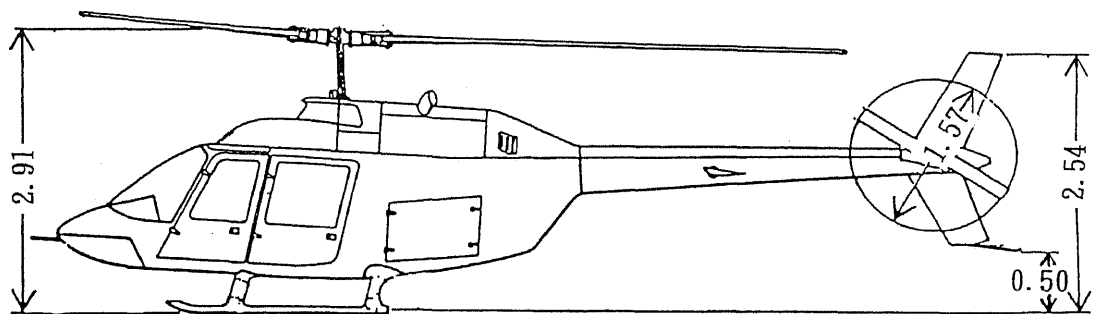
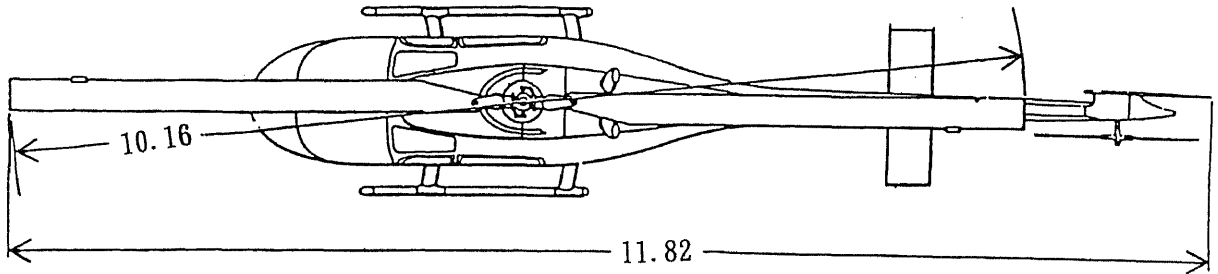
同機のテール・ロータ・ブレードは、視認性の向上のために、ベル社が昭和 6 0 年（1 9 8 5 年）1 1 月 1 日に発行したテクニカル・ブリティンに基づいて、平成

元年4月11日に白地に幅7センチメートルの3本の黒線のある塗装に改装されている。(写真参照)

3 原因

本事故は、営業職員が機体に付着した薬剤を洗浄中、エンジン停止後惰性で回転していたテール・ロータに近づき過ぎて、手首が同ブレードに接触したことによるものと認められる。

付図 ベル式206B型 三面図



単位：メートル

写真 同機のテール・ロータ・ブレードの塗装

